（資料・HP 告知用）

大学生の応急処置に対する意識と知識の実態～看護学生と他学部生における比較～

研究責任者：名古屋大学医学部保健学科看護学専攻　基礎看護学講座　教授　山内豊明
研究分担者：吉田朱里

1.研究概要

平成２３年３月に東日本大震災が発生し、さらには、今後、首都直下地震や東海・南海・東南海三連動地震などの危険性も懸念され、より一層市民の救護力の強化が求められる。

また、そのような災害発生時に学生を含めた医療関係者がリーダーシップを取り、救命・応急の手当て、搬送などが迅速かつ適切に行われる必要がある。したがって、講義で医療等の情報に触れる機会が多い保健学科看護学専攻生と医療等の講義がほとんどない他学部生の応急処置に対する意識・意欲と知識習得の実態について比較検討し、明らかにすることを目的とする。

2.研究方法

＜対象者＞

選択基準は名古屋大学に在籍する医学部保健学科の看護学専攻以外の学生と医学科を除いた学生とする。医学部以外の学生に関しては、運動系サークル２つ、文化系サークル２つより対象となる学生にアンケートを配布する。

＜方法＞

名古屋大学の保健学科看護学専攻と他学部生を対象とし、1)基本属性、2)応急手当の認識、3) 応急手当の講習の受講、4) 応急手当の知識、5)応急手当の実施、選択式・自記式アンケートを行う（資料 1)。アンケート用紙を配布し、それを自ら回収箱へ投函してもらう。そのことをもってアンケート調査への参加同意とみなす。アンケート回収後の処理に$\chi 2$検定を行う。看護学生と他の学部の学生で差があるのかについて統計をとる。５％未満を有意差ありとする。

3.研究に参加した場合に予測される危険・不利益

アンケートの設問が回答者の個人に関わる内容にも触れるため、回答中の参加者のみなさまに不快感や、精神的苦痛をもたらす可能性がないとはいえないが、危険を及ぼす程度とは考えがたい。また、アンケートは連続不可能匿名化にて行うため個人的な不利益が生じることは考えがたい。

4.倫理的配慮

生命倫理委員会の倫理審査を受審する。

対象者の選考方法として、看護学専攻の学生に関しては、学生の講義前に教室に出向き、研究説明書とアンケート用紙を学生全員に配布し、口頭で研究参加への依頼と説明を行う。講義後、配布したアンケート用紙を自ら回収箱へ投函してもらう。他学部の学生については、名古屋大学の運動系サークル１つ、運動系サークル１つ、文化系サークル２つに出向き、研究説明書とアンケート用紙を対象の学部生に配布し、それを自ら回収箱へ投函してもらう。

研究への参加は対象者の任意であり、不参加の場合でも不利益を被ることはない。また、全ての項目に回答しなくてもよい。また、研究協力の途中で参加を辞退してもかまわない。アンケート用紙を自ら回収箱に投函することをもって同意したものとみなす。

本件で得られたデータは本研究の目的以外には使用しない。個人情報は匿名化を行う。データは研究

終了後、紙媒体や CD-ROM 等で保管されたものはシュレッダーにて粉砕、または焼却し、電子媒体や HDD 上に保存されたデータは消去する。

本研究は、研究倫理委員会の承認を得て行うこととする。

5.インフォームドコンセント

対象者の選考方法として、看護学専攻の学生に関しては、学生の講義前に教室に出向き、研究説明書とアンケート用紙を学生全員に配布し、口頭で研究参加への依頼と説明を行う。講義後、配布したアンケート用紙を自ら回収箱へ投函してもらう。他学部の学生については、名古屋大学の運動系サークル１つ、運動系サークル１つ、文化系サークル２つに出向き、研究説明書とアンケート用紙を対象の学部生に配布し、それを自ら回収箱へ投函してもらう。回収箱への投函をもってアンケート調査への参加同意とみなす。また、調査対象者には大学生であるが未成年も含まれるため、研究概要について HP に公開し、親権者または未成年後見人が拒否できる機会を保障する。